稲城野草散策の会

野草スケッチ　マンサク（マンサク科）

2002/01/25　　檜原村　　絵と文　Ｔａ

会報第８５号　２０１２年１月１５日発行　発行責任者　尼子　房夫

みなさま、明けましておめでとうございます。　本年もよろしくお願いします

マンサクは雪国の春によく似合う。
私の郷里は新潟県新発田市であるが、そこに住んでいた頃は植物にはとんと興味がなかったし、山野を歩き回るような趣味もなかった。
したがって、郷里ではマンサクの花を見たことがない。
「雪国の春に似合う」と思ったのは、新潟県魚沼市でフィールドワークをするようになってからである。
稲城野草散策の会にもよく参加しているＴさんが魚沼市の出身であり、彼に誘われて何度か魚沼へ出かけた。

魚沼に春が訪れるのは５月の連休からだ。
カタクリ、オオバキスミレ、ミチノクエンゴサクなどはオーバーではなく道端の雑草同然。
コシノカンアオイ、コシノコバイモ、オオイワカガミ、コシジタネツケバナなども写真を撮り放題である。
見上げればタムシバの白い花、ユキグニミツバツツジのピンク、そしてマンサクの黄色がある。
ただし、雪国の春は気まぐれで、冬の積雪量と春の気温によって残雪の様子が異なり、同じ時期に行っても、見られる花は毎年少しずつ場所を変える。

Ｔさんの家の周辺で前述の「雑草のごときスプリングエフェメラル」を堪能した後、スキー場へ向かった。
スキー場といっても、麓は雪が融けている。
雪国の植物は雪解け直後が一番いい。
サンカヨウ、ユキザサ、イワナシなどを見ながら、雪のないゲレンデを登る。
にょきにょき伸びているのはオオイタドリだ。
途中、フキノトウやウドなどの山菜もわれわれを楽しませてくれる。

やがて、リフトが動いていて一面の銀世界が広がる地点に出た。
ここから先はトレッキングシューズでは無理だ。
車道を通って麓まで下りることにした。
ブナ、アカイタヤ、バッコヤナギ、タニウツギ、タムシバなどの冬芽を観察しながらの、のんびり歩きである。
わき道に逸れて少し歩いたとき、マンサクの群落に出会った。
谷川の向こうの雪山と青空をバックに咲いているマンサクにしばし見入った。
雪国の春にぴったりの花だなあ、と思ったのはそのときだった。

マンサクにはいくつかの変種があり、雪国にはえているのはマルバマンサクである。
関東より北の太平洋側にはオオバマンサクが生える。
中国地方には、咲いているのを見たことはないが、アテツマンサクがあるそうだ。
植栽されるシナマンサクは中国原産で、別種とされている。
余談だが、それらのマンサクはみな冬芽をスケッチした。

今回のスケッチは桧原村に自生していたものだ。
多分、変種ではない、関東に生える正真正銘の？マンサクである。
じつをいうと、冬芽スケッチを終えたサンプルを水に差しておいたところ、花が咲いたので２度目のスケッチになったような次第であった。

マンサクの語源は「先ず咲く」とも「満作」とも言われ、雪深い山でいち早く咲くマンサクの花に、今年の豊年満作を願ったという説が一般的のようである。
ところが、違った見方をする人もいる。
「植物名の由来（中村浩著）」によると、あの花びらが不況のときに稲がつける「しいな」に似ているのだという。
愛知県には「シイバナ」という方言もあるそうだ。
凶作を感じさせる名前ではしゃれにもならないため、「梨の実」を「ありの実」と言い換えたように、忌み言葉を逆転させてめでたい言葉にしたのだ・・・とのことである。
どちらが正しいか、私などでは推し量ることも出来ないが、こうした語源の探求は面白い。
植物名を通じて、昔の人の暮らしや考え方が見えてくるような気がしてならない。
（２０１１年１２月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔行事記録〕１２月１８日　穴沢天神・焼き芋大会

今年の穴沢天神での焼き芋大会の日は、京王よみうりランド駅に向かう京王線の車窓から富士山がくっきりと見える良い天気で、風もないすばらしい焚き火日和になりました。

いつものように観察班と準備班とに分かれました。観察班は無事退院して元気に現れた広沢さんが案内。準備班は内山さんが担当。皆さんより早めに穴沢天神に向かった田沢さんが早速焚き火の火をつけ、例年より早めに準備が出来ました。

焚き火の模様は下の写真をご覧下さい。観察班も早めに天神社に到着。

　さつまいも、じゃがいも、さといももうまく焼け、天神社からのお酒の差し入れもあり、大いに盛り上がりました。

　寒い中、冷たい水を使用しての準備に頑張って頂いた皆さん、最後まで残ってお世話いただいた内山さん、ありがとうございました。(FAM)

焚き火の写真（田沢さんによる）

〔紹介〕冬芽ハンドブック

　稲城野草散策の会の世話役・広沢さんが初のハンドブックを刊行されました。

　発行：文一総合出版、解説と絵：広沢毅、写真：林将之、定価：１２６０円

　林将之さんは、「葉で見わける樹木」、「樹皮ハンドブック」、「紅葉ハンドブック」でおなじみの方です。

＜本書の特長＞

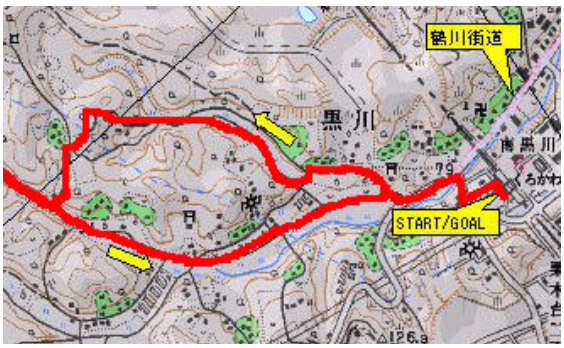
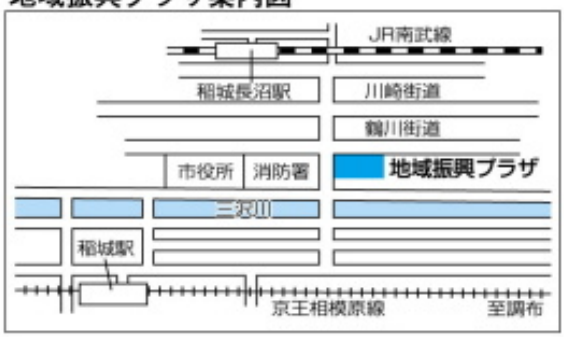
●鮮明な冬芽のスキャン画像を多用した、ビジュアルな紙面。

●冬芽画像を一覧掲載した、初心者にも調べやすい検索表。

●冬芽や葉痕、枝、幹の特徴を、比喩を交えて紹介した解説。

　書店で右のような本を見かけたら是非ご購入下さい。

〔行事予定〕2012/1/15（日）　黒川・行事計画

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、小田急多摩線・黒川駅南口階段下　※会旗目標 改札口は一個所だけです
交　通	小田急線・新百合ヶ丘駅より唐木田行きに乗換えて３駅目 京王相模原線・永山駅で小田急多摩線に乗換え２駅目です 京王線利用者は、京王相模原線・若葉台駅から徒歩（１０分弱）が便利
行く先 （解散場所）	午前中は黒川の谷戸で七草摘みをします。午後は稲城市地域開発プラザで２０１２年度の行事予定を検討し、ｐｍ4時頃解散予定
見所 その他	七草粥用のセリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）などを摘みます 。 摘んだ七草は各自お持ち帰りください 七草粥は作りません。**昼食は忘れないでご持参ください**
地　図	 **地域振興プラザ案内図** 
コース	黒川駅→汁守神社→（黒川の谷戸で七草摘み）→汁守神社→（徒歩で若葉台駅→京王線で稲城駅）稲城市地域開発プラザ・４階大会議室（１時ごろより昼食後行事予定検討）（解散・・・１６時ころ） コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円。

〔行事予定〕2012/2/19（日）　多摩美の森

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王相模原線・京王よみうりランド駅改札口付近 京王よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線調布駅から京王相模原線橋本行快速または各停で３駅目 多摩モノレールは、多摩センター駅で京王線に乗換えて４駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 京王よみうりランド駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	小田急線・読売ランド前駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	冬芽、シダ。おなじみの樹木を「高木の見方」を主体に観察します。 ここには多摩丘陵では珍しいナツハゼがあります
地　図	
コース	京王よみうりランド駅→穴沢天神→小沢城址→菅仙石→寿福寺→フルーツパーク→巨人軍宿舎前→多摩美の森→雑木林の道→日本女子大→小田急読売ランド前駅（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円